

同窓会だより



最後の木造校舎（家政科棟、旧図書館）



新築工事

ご

挨拶

同窓会会長 井深透

輝かしい昭和五十九年の新春を過ぎ同窓会会員の皆様には益々御清祥にて新年をお迎えになりました事は、誠にお目出度い事でお喜び申し上げる次第で御座います。

本巣高校の卒業生もだんだん多くなって参りまして一万八千五百二十七名を数うるに到り、社会の各方面に於きまして御活躍御精進されて居ります事は御同慶の到りに存する次第で御座います。

同窓会過去一ヶ年間の歩みを御報告申し上げますと、昨年八月二十日に本部総会が北方町の円鏡寺境内にあります濃鳳会館に於いて開催致しました處、出席者百有余名で御座いました。当日は第十七回卒業の横山副知事さんが公務御多忙の処御出席になり、学生時代の思い出話から昨今の社会状勢につきまして色々とお話を拝聴致しました。又昨年の県議会議員の選挙に目出度く当選の栄冠を得られました杉山県議会議員も御出席戴き色々とお話を拝聴致しました。

高校卒業三十年目になります昭和二十八年三月に卒業されました方に特に出席を呼びかけ致しました処、多数の方が御出席になり、かつての青春の時代に帰りなごやかなムードの裡になつかしい数々の思い出話に花が咲いて居りました。懇親会に入りましてから母校の松樹輝くと云う題名の八ミリ映画が上映され、母校の現況を観覧致しました。岐阜放送に居られました歌手伊吹まゆみさんが出席され、色々の歌をうたつて戴き、又会員の内より色々の歌声が出来て極めてなごやかなムードの裡に盛大に行われました事を御報告申し上げる次第で御座います。

岐阜支部の総会は昨年五月二十八日岐阜市のニコーナガラ館に於きまして盛大に開催され出席者百有余名で御座いました。第七回卒業の吉岡勲先生の岐阜市への変遷について講演が御座いました事を御報告申し上げる次第で御座います。揖斐郡の教職員の方々の同窓会、名古屋支部、関西支部の総会は夫々盛大に開催されました事を併せて御報告申し上げる次第で御座います。

従来の同窓会は年輩の方が比較的多かったので御座いますが、二年位前から少々変つて参りました。一世代の若い方、又婦人の方の出席が本部、支部の総会を通じて多くなつて参りました事は嬉しい事と存ずる次第で御座います。

同窓会はかつて同じ学びやを築立ちました私共が、年に一回一堂に会し青春の学生時代に想を致し、共になつかしい思出を語る事の出来る機会で御座いまして、総会には世代の相違を乗り越えて一人でも多くの方が御出席戴き、友情の絆を強め友情の輪を広げて戴き、同窓会と共に会員の皆様の御健康をお祈り致しまして御挨拶と致します。

同窓会だより

母校の現況

学校長 河合 敏緒

今年の冬は例年になく厳しく、時には零下五、六度という朝もあります。同窓会員の皆様には御健勝で御活躍のこととお喜び申しあげます。また、平素は何かと母校に心を寄せていいただき、かつ、御支援を賜わっておりますことを心から感謝いたしております。

昭和五十七年度の本校部活動の活躍ぶりは、昨年の「同窓会だより」で報告しましたが、大学入試の合格状況も部活動を上回る好成績でした。京都大、名古屋大を始めとして國公立四年制大学の合格者は百十九名にのぼり、進学校としての実力を遺憾なく發揮しました。國公立四年制大学への合格者が百名を突破したのは本校創立以来の快挙であり、長年の悲願の達成でもあります。受験生諸君の努力、教師の熱意に加えて同窓生の皆様の御激励があつて成就したこと、心から感謝いたしております。今年の三月も昨年度に劣らぬよう生徒、教師共々全力を尽くしております。

部活動の今年度の成績は昨年度に較べるとやや振いませんでしたが、それでもソフト部はインターハイ、国体に出場し、母校や県の為に氣勢を擧げてくれました。現在、運動各部は来年度に備えて猛練習中であり、バレーボールは既に県内トップの座にあります。文化部も来る八月に全国高校総合文化祭が岐阜市を中心開催されることもあって、バスケット、卓球を始め各部張り切っております。

ところで、今年度の特筆すべきことは、待望の家庭科教室の改築が始まっています。家庭科教室は昭和三十二年に建った木造校舎で、既に危険校舎に指定されており、内部の設備も貧弱で、生徒に不自由な思いをさせおりましたが、この四月からは新しい教室と立派な設備の中での家庭科教育の一層の充実をはかることができると言えています。しかし、淋しいことはこの校舎改築に伴

っておりましたが、この四月からは新しい教室と立派な設備の中での家庭科教育の一層の充実をはかることができると言えています。しかし、淋しいことはこの校舎改築に伴

つて旧図書館が取り壊されたことです。旧図書館は大正末年に建築され、昭和二年四月十二日に開館されて以来、幾多の生徒がここで学び育った所で、特に旧制本巣中学の卒業生には格別懐しい建物であろうと思われます。校内のどこかに移築して保存したらどうかという意見もありましたが、なにせ六十年近く経過し、しかもその間に移築されていることであつて老朽化が甚しく危険だということで、止むを得ず昨年七月十一日に取り壊されました。しかし、何かの機会に復元といふことも考えられるので、精細な図面を作つて、そした要望に応えられるように配慮しています。

終りになりましたが、同窓会の益々の御発展をお祈りすると共に、母校への相變らずの御支援を心からお願いいたします。

これで本巣高校には昔からの木造校舎は一切無くなりました。私自身も旧い木造校舎で学んだ卒業生です。時代の推移に感慨無量なものを覚えます。校舎は近代建築に変ります。でも、校庭の樹木は昔のままであります。それに、何よりも学校の持つ雰囲気が創立以来の伝統をうけついで、「質実剛健」「志操堅固」の旗印のもとに、昔の良きものを維持しております。機会を捉えて是非母校にお立ち寄りください。

終りになりましたが、同窓会の益々の御発展をお祈りすると共に、母校への相變らずの御支援を心からお願いいたします。

昭和五十八年度 総会報告

財団法人

加藤記念奨学生会
— 奨学事業一段と強化 —

昭和58年秋の叙勲で、当財団理事長加藤利一氏は勲三等瑞宝章受章の学年をうけられ、同窓会はもとより、同窓会としても、この上ない名誉なことと喜んでいます。

当財団法人は昭和53年4月設立來、順調にその事業の実をあげてきたが、この度の叙勲でありますから、この川崎重工業を我が家と思つて精根を打ち込んで働いて来ました。爾来五十年、私はずっと川崎重工業と共に生きてきました。

そんな不況の中に私を採用してくれた会社でありますから、この川崎重工業を我が家と思つて精根を打ち込んで働いて来ました。「苦しいことのみ多かりき」と思うこともあります。そんな苦悩を経て又楽しいこともあります。実社会に於ては学校で学んだことだけでは処理出来なくて、自らの判断に従つて決定を下さねばならぬことが多いあります。しかも一たび決断した以上は、必ずこれを実現するだけの実行力を必要とします。若だき、合計七千万円を超す基金となり、奨学生事業が一段と強化されることになった。

加藤利一（中4回卒）

昭和五十八年八月二十日午後二時より、北方町の「濃鳳会館」で、58年度の総会が開かれた。出席者の出足が心配されたが、昨年度より卒業三十年目にあたる、昭和28年三月卒業生に出席の呼びかけを行つたことにより、四十名の諸氏の参加を得られ合計一〇四名の出席を得て、山田美代子副会長の司会で総会は始まり、翠正明副会長の開会の挨拶、井深会長、河合校長、横山岐阜県副知事、杉山友一、県議の挨拶のあと、佐倉岐阜支部長を議長に選出し議事に入つた。事務局より会報報告、会計決算報告、監査委員梅田茂氏の監査報告、続いて竹林教頭より、創立50周年記念奨学金給付報告、次いで58年度事業計画、予算案について提案があり、いづれも全会一致で承認された。

総会後は懇親会がもたれ、本巣高校の歴史と生徒の現況を撮影した8mm映画「松樹輝く」を上映し、その後、歌手、伊吹まゆみさんの歌などで和やかな談笑が続き、夕刻盛会裡に散会した。

△御出席の恩師の先生方（敬称略）

井上ふみ（33～39）、浅野信夫（16～23）、高橋巖（19～41）、山田修次（20～31）、松尾克美（24～30）、戸部秀済（27～46）、杉山義雄（29～43）、水井良子（41～46）、笠原智子（42～47）、小森堅（43～46）

私は昭和三年三月、本巣中学校を卒業して名古屋の八高（旧制）を経て京都大学に進み、昭和九年三月卒業後直ちに神戸の川崎重

信いたします。最近は世の中の移り变りに伴つて、とかく外的な現象に捉われ易くなつて、いますけれども、常に内なる真実を求めるよに努力する要があると思います。学習に於ても基礎的なこととの勉強を中心としてそれから応用問題に進んで行けば、如何なる困難な問題に当つても必ずや解決することが出来ると思います。人生は一生が勉強の連続です。学生諸君は常に基本的な研究を怠らず、それから基として将来に向つて成長発展せられんことを祈念しております。

（略）

母校とは

中10 白井 軍太

去年の暮、中学卒業五十年目のクラス会をこの三月行う連絡をうけた。反射的に出席しようと思う。そんな気持を抱かせる母校とは何であるのか。多くの同級生が太平洋戦争で亡くなつた。幸い命永らえた者は一向に平和再建に努めてきた。そして再び軍備の呼声がおこりつつある。そんな激動の世に廻り合つた故に母校が意識されるのだろうか。年始の挨拶で故郷へ行く度毎に母校の前を通る。煉瓦の古門、生垣の老松、十四、五本

の大公孫樹など生徒の頃の遺物が懐かしい。だからといって母校が存在するのでもない。六十有余年、母校は幾多の有為な人物を生み出した。クラブ活動では幾度か全国制覇を果し、官公立大学への進学者数、昨年は三桁に達するなど母校知名度は確立した。だが、それも母校存在の基本条件とは余り関係がない。高浜虚子は、「今年貫く棒の如きもの」と詠んで新年の実体を把握しようとした。私はこれに倣つて、母校とは「天国地獄貫く棒の如きもの」と考える。母校とは地獄即ち俗世間へ出る以前の無心界、抹香臭い表現を用いれば、極楽浄土の匂を漂わせ、天国の栄光を感じしる無心の学生時代を基礎に始めて成立する存在である。

本中校歌の思い出

本中五回卒 高 橋 嶽

本中が旧制中学校として糸貫川のほとりに生れたのは大正九年で、その校歌が始めて出来たのが昭和三年頃である。その校歌は次のような歌詞のもので、本中二代の校長篠崎敏治先生が自ら作られたもので、五年生になつた私どもがこれが本中の校歌だと言つて始め歌つた思い出深い校歌だった。篠崎校長と言えば初代の利根川校長の後任として海津中の校長から栄転して来られた英語の先生なのだが、国漢の素養も豊かな文学者だった。式辞も漢文句調、五年生に教えた修身も英語の授業という文学者ぶりで、私ども生徒は又校長語るという感覚できいたものだった。

一、糸貫川の山の尾の上より

秀でて高き金華山
常磐の緑濃に
此の面彼の面の蔭繁し

二、小菅さや敷く席田の
糸貫川の底深み
藍を湛へて流れ行く
八十瀬の浪の音清し

三、高きは君が御蔭なり
清き流れの一すぢに
御國のために尽さむ
繁きは御代の恵なり

四、雲井に通ふ九臘の鶴
高き心をならひつ
正しき道を践め行きて
人の世の為努めなむ

本中が旧制中学校として

校 歌

篠崎敏治校長作

一番と二番

では学校の附

近の山河の自

然の美をたたえ、三番と四

番では国のため社会のため

に減私奉公せねばならぬと

当支部も昭和五十五年に再発足以来、支部員皆さんのご協力を得て漸く年毎に発展しつつある感がします。昭和五十八年度には幹事会を四回開き、又支部総会は岐阜県史にござる吉岡勲先生（中7）のご講演をお願いして五月二十八日（土）ニューナガラ館にて盛会裡に開催されました。総会には横山副知事（支部顧問中18）を始め本部より井深会長、河合学校長、中島先生

文部だより

岐阜支部長 佐倉 式三



の出席をいたぎ、又出席会員は中学校47名、女学校28名、高等学校19名、計九名の多数がありました。総会は高橋幹事（中22）の司会で支部長挨拶、井深会長の同窓会の活動報告、河合学校長の母校近況報告、そして横山副知事の岐阜郷土母校愛についてのご挨拶をいたぎ、続いて広江副支部長（中8）を議長に選出し議事に入りました。

一、会務報告—遠山幹事（中11）。二、会計報告—大野副支部長（女13）。三、監査報告—長柄幹事（中13）。四、役員改選—全員留任。の全議事を終了して講演会に入りました。講演は「岐阜市の変遷」と題して吉岡先生が岐阜市に住む私達に身近かで興味深い歴史について話をして下さいました。

懇親の宴は八代幹事（中15）の開宴の辭に統じて篠田先輩（支部幹事、中2）の音頭で乾盃すれば場内は本塗一色の熱氣をはらむ歓声で和氣あいあいとなり、その中にスピーチあり、唄あり、踊りありで誠に盛り上った楽しい懇親会となりました。

最後に井深会長の音頭で万才を三唱し、所

